

2015年7月9日 日本臨床漢方医会 第6回漢方家庭医講習会

# 高齢者疾患と漢方

～認知症に対する漢方治療も含めて～

---

高齢者介護施設 同胞互助会理事長

蓮村幸兌 (三考塾)

# 始めに

40年来高齢者施設(養護・特養)の医療に関わってきた。  
介護保険の導入以降、特養利用者は年々重度化し、  
在園期間も短くなってきている現状がある。  
看取りの率も漸増傾向にあり、施設内看取りは95%である。  
施設の役割は疾患を持ちながらADLの低下もある利用者が  
日々快適に生活する支援である。  
そのためには施設内に於いても在宅と同様、各専門家のチーム  
による総括的サービスが要求されてくる。  
個別のケアの具体的な目標としては**快眠快食快便快感の  
四原則を維持**する事であり、その手段の一つとして漢方薬が  
欠かせないと考えてきた。  
私は寺師睦宗先生の三考塾に属して学んできた。

# 寺師三考塾の考え方

1. 医経：黄帝内経・素問・靈枢・・・漢方の病理

2. 経方：傷寒論・金匱要略…………… 診断と治療学

3. 本草：神農本草経・本草綱目・・・薬物学

# 漢方の治療は**随証治療**と称されるが**証**とは何か

- 1・漢方診断法[望・聞・問・切]によって得られた患者さんの全情報(症候)を取る
- 2・情報を**気血水に分類**し、その人の体質・弱点・病因を探る  
気・・・肝気鬱結[気滞]の徴候・肝気虚・気逆  
血・・・血虚・瘀血の存在[腹証]  
水・・・水毒[痰飲]・陰虚(血虚)・
- 3・気血水の分類から**臓腑との関連**を考える
- 4・以上を総合してその人の漢方的な診断を決定し**証**と名付け、その証に合致した処方を考えることを**随証治療(本治と標治)**と言う。
- 5・**証とは診断と治療の手がかり**である。
- 6・証には三種ある。今の証・体質的な証・病気としての証
- 7・今の証に対する対症治療(**標治**)は適方であれば速効を期待できる。  
長く飲まないとい効き目がないという点は体質的な証に対する**本治**を指す。

# 気血水の症状分類

## 気

イライラ・不安・鬱っぽい・不眠・夢が多い・熟睡できない・意欲がない  
横になりたい・すぐ眠くなる・動悸・パニック・いてもたってもいられない  
過食・あせり・咽がつまる・すぐのぼせる・顔が赤くなる  
腹証(胸脇苦満・心下痞鞭・腹直筋の緊張・臍傍動悸・腹力・腹満)

## 血

肩こり・目の下のクマ・顔色がどす黒い・各種の痛み・手術の既往  
放射線治療・ホルモン治療・抗癌剤などの既往・しもやけ・貧血  
肌の乾燥・月経前後の苦痛・子宮筋腫・老人性斑点  
外傷・高血圧症・血液疾患・食生活の偏り・瘀血圧痛点

## 水

唾が多い・ヨダレが多い・口の中の乾燥・便秘・下痢・肩こり・頭痛・  
皮膚粘膜の異常(胃の不調・吐き気・食欲不振)車酔い・皮膚の乾燥  
湿潤性の湿疹・水疱・むくみ・冷え・倦怠感・夜間頻尿・鼻と喉の異常  
舌の状態(胖大・白苔・白膩苔・乾燥状態・齒痕)

# 気血水を解決する漢方薬

気

柴胡剤：小柴胡湯・大柴胡湯・柴胡加竜骨牡蛎湯・四逆散・柴胡桂枝湯  
柴胡桂枝乾姜湯・加味逍遙散・抑肝散・抑肝散加陳皮半夏  
補中益気湯・加味帰脾湯など  
理気剤：半夏厚朴湯・香蘇散・甘麦大棗湯・三黄瀉心湯

血

駆瘀血剤：当帰芍薬散・桂枝茯苓丸・通導散・大黄牡丹皮湯など  
血虚に対する四物湯類：四物湯・温清飲・芍帰膠艾湯など

水

四君子湯・六君子湯・茯苓飲・茯苓飲合半夏厚朴湯・五苓散・苓桂朮甘湯  
真武湯など本人の証にあった利水剤

# 臓腑のどこが弱いのか

(その薬方はどの臓器に有効なのか)

- 1・脾胃の治療を優先する
- 2・一番苦しい症状を取る・標治(対症治療)
- 3・根本治療……………本治を考える。
- 4・薬方がどの臓器に主に効くのかを知っておく

・六君子湯・人参湯……………脾胃  
・真武湯……………腎  
・小柴胡湯……………肝  
・小青竜湯……………肺  
・三黄瀉心湯……………心

# 治療のコツ

- 1・随証治療は使ってみなければ適方であったかわからないので初診後は短期間で経過を見ながら調整してゆくことが望ましい。
- 2・初診時の説明が最も重要で何のために何を用いるのか説明し、食事療法や生活の是正まで必要なことを話し合うことが望まれる。  
食事の陰陽バランスの是正と水分摂取の方法については現代の治療には欠けている部分なので外せない。  
冷える食品に偏らない・・・砂糖・生野菜・果物
- 3・現代的病名はさておき、気血水の調整ができれば元気になることを理解させる。  
風邪に葛根湯と言うように病名治療は危険がいっぱい。
- 4・現代薬はよほどの場合を除き変更せず漢方薬を併用してゆく形が望ましい。
- 5・自分で自分の体を観察し処方を選べるようになるように説明を重ねてゆく。  
随証治療とは自分でその都度考えて使うのが理想。



# 高齢者に対する漢方エキス剤使用上の注意

- 1・合方による甘草の重複を考える。芍薬甘草湯は1日量中6gの甘草
- 2・利尿剤やカリウム製剤の内服状況をチェック
- 3・甘草に対する過敏性の違いを念頭に置く
- 4・初診時に甘草重複の弊害について説明しむやみに合方しないように注意する
- 5・飲み込み困難のある人では果物や生野菜などの不足により低カリウム血症になり易いので食事形態を確認する。
- 6・むくみが目立たなくても低カリウム血症が起こっている場合もあるので時々チェックする。
- 7・胃に触ることのある麻黄剤や石膏剤、清熱剤などは注意深く用いる
- 8・1日1回～2回と服薬回数を少なくすると良い場合があるし、症状が出た時にその都度用いる場合には特に即効性があることを自身で理解する。

# 漢方薬による低カリウム血症と不整脈を指摘された症例

85歳 女性

ショートステイ利用時に30分おきの頻尿に対し、清心蓮子飲エキスを1日3回用いたところ、症状が改善され1～2時間は持つようになったと自宅にも持ち帰って内服していた。自宅で急性の心不全として入院し、退院後、再度施設のショートステイ利用のために来園した。入院先の病院からの情報提供書には「入院後血清カリウム値が2.5と低く、上室性の頻脈が多発し心房細動に移行しそうでした。結果的に見て貴院で処方中の漢方薬を中止したところ改善されました。甘草のアルドステロン様作用と考えられます」とあった。

清心蓮子飲1日量7.5g内の甘草含有量は1.5gである。

一般的には1日3g以内とされているが食事がきちんととれている人では5g以内を目安にしている

# 漢方薬の副作用 (甘草以外)

生薬・方剤名	副作用
麻黄	胃腸障害・動悸・興奮・尿閉・脱汗・覚醒
石膏	胃痛・下痢・吐き気・食欲不振
桂枝・川芎・黄芩(発熱)	生薬アレルギー
特定できない	肝機能障害
山梔子	特発性腸間膜静脈硬化症による 慢性虚血性大腸病変 10年以上の使用者に多い。
小柴胡湯	間質性肺炎

漢方薬が合わないのではなく、どの生薬が合わないか？

# 漢方薬による認知症治療のポイント

- 1・可能な限り現代薬の睡眠剤や鎮静剤を減らす
- 2・中核症状より周辺症状の改善を期待する  
特に不眠の改善
- 3・日常生活の中で快眠・快食・快便・快感を目指す
- 4・漢方的な病因を考えて治療する。

# 臓器と認知症の関係

五臓	機能
心	神(精神作用)を主る
腎	精を蔵して髓(脳)を養う
脾胃	気血を生成し、意欲・気力を主る
肝	血を蔵し、情緒のコントロールをする
肺	宣発と肅降作用により水穀の精微を全身に分布し水液代謝の調節と全身の気機の調節を主る

# 漢方的認知症の病因

病因	症状
脾虚	気血の生成不足 ⇒気虚・血虚・水毒
肝気鬱結 肝気虚・肝血虚	各種の精神症状・不眠・譫妄・自律神経失調
腎虚	腎精の不足による脳髓の不足・難聴・耳鳴り 冷え症、失禁、脚弱、眩暈、 腎虚は心との協調関係を乱し心火が燃え上がり、 異常な興奮状態を引き起こす。
瘀血	血液循環障害による各種の症状

# 気虚・血虚・陽虚・陰虚

気虚

機能の低下



陽虚

気虚が進みエネルギー不足のために寒証を伴う状態

血虚

物質的な不足



陰虚

血虚が進み、虚熱を伴う状態

# 病因に対する認知症の治療

病因	症状	方剤
肝気鬱結	肝気の高ぶり (肝気鬱結)	抑肝散(加陳皮半夏)・釣藤散・四逆散 柴胡加竜骨牡蛎湯・竜胆瀉肝湯 加味逍遙散・補中益気湯・加味帰脾湯
肝気虚	意欲の低下・無為	黄耆建中湯・補中益気湯
肝血虚	不眠・せん妄・不安 ムズムズ症候群	酸棗仁湯
脾虚	意欲の低下・食欲不振 無為・肩こり・うつ 食後の居眠り	呉茱萸湯・六君子湯・茯苓飲 補中益気湯・加味帰脾湯
肾虚	寝てばかり寒がり 腰痛	八味丸・牛車腎気丸・六味丸・真武湯
心火の亢進	—	黄连解毒湯・三黄瀉心湯・黄连湯
瘀血	—	当帰芍薬散・桂枝茯苓丸 桃核承気湯・通導散



# 不眠

## 人臥血歸於肝……素問・五臟生成篇

肝に血が満ちていることが安眠の条件である。

日中は陽気(肝陽・衛気)が体の表面から体内を巡り活動している。

夜になると陽気は肝の血の中に收容されることによって眠りが生まれる。

肝血が不十分であると陽気を收容しきれず不眠となる。

肝と心は互いに母子関係にあるので肝血虚すれば心血も不足して精神は不安定となる。

# 酸棗仁湯

虚劳・虚烦、眠るを得ざるは酸棗仁湯これを主る(金匱要略)

虚劳とは慢性の疲労や消耗による虚弱性の病をいう。

虚烦とは虚劳により肝血が不足したことが原因で生じた胸内煩悶

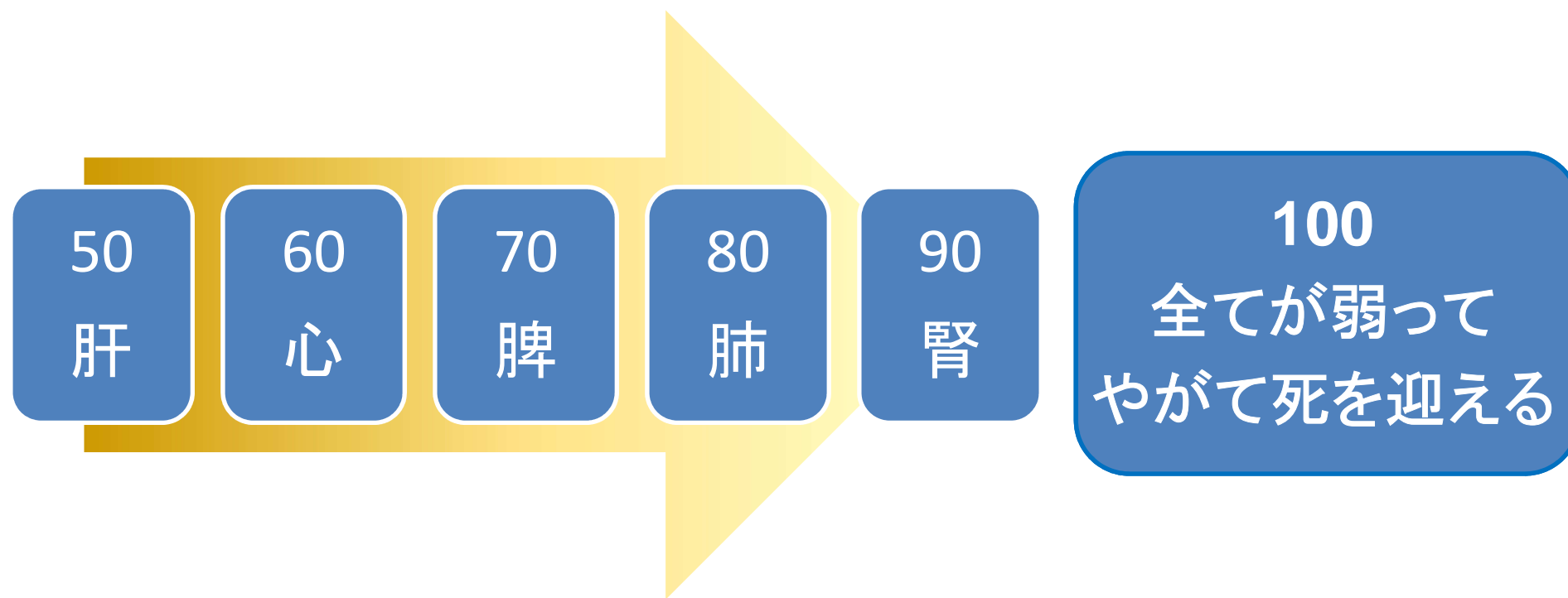
つまり虚劳のために煩悶して眠れない状態に対して用いる薬方

## 構成生薬

- ・酸棗仁: 肝血を補って心を安定させる
- ・川芎: 酸棗仁を助け肝鬱を散ず
- ・知母: 滋陰清熱作用により虚熱を清し、深部体温を下げる
- ・甘草: 肝の急を緩める
- ・茯苓: 利水鎮静作用

# 老化に関する最古の記録

(黄帝内経・素問・靈枢の、靈枢の中にある)



# 症例1 酸棗仁湯:夜間せん妄

92歳 女性  
アルツハイマー型認知症

介護者の急な入院でショートステイを利用することになった。  
来園時より不穏な状態で意味不明の言動があり目がはなせない。  
家族より安定剤は絶対、使わないでほしいという要望がある。  
初日の晩から酸棗仁湯を2, 5g服用し、翌日の朝からは3回の  
内服とした。するとたちまち落ち着いてきて夜も眠るようになった。  
眠りが浅い時には更に2. 5gを追加して安定し、せん妄も改善した。

## 症例2 酸棗仁湯:ショートステイ利用初日の不眠

83歳 男性  
アルツハイマー型認知症

自宅では妻の介護を受けている。初めてのショートステイ利用の晩、夕方から「家に帰りたい」を繰り返して落ち着かない。

酸棗仁湯エキス5gを就寝前に服用して20分後に眠りにつき、熟睡してすっきりと目ざめた。1週間を経過し帰宅時に「家でもまともに寝ていないので継続して服用したい」という。

家族の希望で持ち帰りその後のショートステイ時も落ち着いて過ごせている。

## 症例3 酸棗仁湯・単独内服では眠れない場合

62歳 女性  
150cm 43kg 主婦

神経質で便秘がちな人だが普段は茯苓飲と加味逍遙散で落ち着いていた。ある時点から夜眠れないので何とかしてほしいという。そこで酸棗仁湯を併用し量は自分で加減するように言った。住所地の沖縄から電話があり「酸棗仁湯を飲んでも眠れない」という。加味逍遙散と併用しているかどうかを聞くと「この所、便が出ていたので加味逍遙散は飲んでいない」という。そこで「今はどのような精神状態なのですか」と聞いてみると「父が亡くなって色々なことがあって落ち込んでいます」という。そこで以前出して手持ちの加味帰脾湯と酸棗仁湯を併用するように指示した。その後は経過が良い。

柴胡剤は肝気鬱結を解消する薬であり酸棗仁湯は肝血を補い、**気と血の両面作戦**により単独使用より強力な自律神経の安定を得られるものと考えている。

# 酸棗仁湯使用のコツ

- 1・体は疲れているのに気がたかぶって眠れない時  
使用量や内服時間は自分で工夫
- 2・就寝前に興奮する様な出来事があり陽気が過剰になっている時
- 3・常用中の安定剤や睡眠導入剤を今以上に増やしたくない時  
(眠りの質が良くなる)
- 4・中途覚醒時にも用いて朝の眠気は残らない場合が多い。
- 5・時差ぼけの予防、むずむず足症候群、何ともいえない胸の不安などに  
応用。単なる睡眠剤ではない。日中のせん妄にも有効
- 6・時に一日中眠くてたまらないという人もいる。その時は証を考え直す。

## 症例4 抑肝散(抑肝散加陳皮半夏):暴言暴力・イライラに

87歳 男性  
アルツハイマー型認知症

日常生活の中で怒りっぽく易怒的ですぐキレる。

大声も出すので周囲の人たちがおびえてしまうくらいである。

腹力は中等度だが、右の胸脇苦満と臍の左に帯状に動悸を触れ、

舌にも白苔が見られたので抑肝散加陳皮半夏を7.5g処方した。

すると徐々に落ち着いてきてどなり声が減ってきた



## 症例5 抑肝散加陳皮半夏:子供の虐待予防に

36歳 女性  
主婦 子供2人  
(結婚が遅く子供が小さい)

子供に手を挙げてしまいそうになり、自分を抑えられなくなりそうで怖いという。神経質で腹力は軟弱、左臍傍の動悸も、右胸脇苦満もある。そこでそんな時には抑肝散加陳皮半夏を頓用してみることを勧めた。するとお風呂場にかけて込んで頓用したところ、たちまち気持ちが落ち着いて子供に自分の気持ちを話すことができたという報告である。これこそ随証治療であると説明した。

## 症例6 抑肝散:攻撃的な寝言などにREM睡眠行動障害に (奈良・稲田善紀先生)

76歳 男性

寝入りばなの悪夢で、なにかと争って格闘する様なしぐさをする行動がある。  
うつ病で治療中だがジェイゾロフトを中止し、サインバルタ20mg夕を  
隔日投与とし、抑肝散5gを夕と就寝前の分2にしたところ3日目から行動が消失  
した。夢はまだあるが朝起きると内容は覚えていないという。

49歳 女性

20年来、攻撃的な寝言がある。抑肝散5gを夕と就寝前の内服で解消した。

## 症例7 釣藤散:イライラして目が充血し血圧が上がり易い・ すぐ頭に血が昇る虚証

81歳 男性  
認知症・痩せ型で小食  
高血圧の治療中

朝の気分が最悪で頭が重く、些細なことで頭に血が昇ってイライラする。大声を出したりはしないが不機嫌で目が血走っている。

釣藤散を7.5g処方すると徐々に頭がすっきりしてきて表情が穏やかになってきた。抑肝散加陳皮半夏と似ているがより虚証で勢いがやや弱い感じがする。共通の生薬は**釣藤拘**で肝気を鎮め痙攣、ひきつけ、眩暈なども治す。

## 症例8 加味帰脾湯:夫の死後の鬱状態

68歳 女性  
158cm 42kg

夫を全力で看取って後、鬱、不眠、食欲不振、何をする気持ちにもなれない、涙が止まらない、体重が減少し顔色も蒼白である。

加味帰脾湯エキス7.5gと酸棗仁湯エキスは適宜自分で加減するように指示した。1週間後「こんなに効くなんて驚きです。

よく眠れるし気持ちも楽になってきました」という。

その後調子が良いので酸棗仁湯を抜いていたら再び落ち込んでどうしようもない、「どうしても両方の薬が必要です」と取りに来た。

その後は元気で過ごしている。

# 症例9 加味帰脾湯:夫の葬儀後の一過性の認知症状態 (吉村信先生)

75歳 女性

50年間連れ添った夫の葬儀後、虚脱状態になり摂食不能、不眠、見当識障害、妄言も出現し、家族に付き添われて来院。

脱水により筋緊張の低下、顔面は黄白色、結膜貧血調、腹部は陥没し臍上動悸を触知、脈は沈遅弱、舌は鏡面舌を示した。

点滴をする一方、精神的ショックで心脾気虚となり摂食不能による血虚に虚熱も加わったと考え、加味帰脾湯エキス2.5gを内服させたところ点滴終了後には歩行可能となり内服2週間で諸症状が軽快した。

## 症例10 桂枝加竜骨牡蠣湯：夕方からの不安・動悸・汗・不眠

76歳 女性  
アルツハイマー型認知症

毎日、夕方になると不安になり汗ばんできて動悸を訴え、息が荒くなる。頬を膨らませ、息を吐き出すようなしぐさを繰り返している。夜も熟睡できていない。

桂枝加竜骨牡蠣湯エキスを夕食後と就寝前に2.5gずつ内服したところ症状が徐々に消えてきて熟睡するようになった。

本方は桂枝湯で陰陽のバランスを回復させ、竜骨・牡蠣が腎の陰気の虚損を補い虚陽を鎮めて精神(心)を安定させる薬である。

高齢者には腎の陰陽両虚があるので用いるチャンスも多い。

## 症例11 四逆散:口をくいしばって開かないので、口腔ケアができない

59歳 女性  
脳卒中後遺症・胃瘻装着  
要介護度5・よびかけに反応なし

刺激が加わると歯を食いしばり口をあかない。歯科衛生士から何とか方法が無いかと依頼された。四肢の屈曲拘縮と廃用性筋萎縮から筋脈が養われていないと感じた。そこで四逆散を溶いて胃瘻から注入したところ、1週間後には開口可能となり口腔ケアができた。2週間目には表情が穏やかになり、3週間目には胸脇苦満が半減し、緊張していた股間もゆるんでパット交換が楽になってきた。

1カ月後には手を握るとじっとこちらを注視するようになった。

本方は陽気の内鬱し肝気鬱結と脾胃の失調がある状態に用い、筋肉の緊張を緩和する芍薬甘草湯(平肝作用)が基本となり柴胡と枳実が加った処方である。枳実には破気作用があり、発散されない気鬱を力づくで巡らす作用がある。

# 症例12 三黄瀉心湯：興奮と被害妄想

94歳 女性

脳血管性認知症・アルツハイマー認知症の混合型

被害妄想が強く、夜間も各種の妄想で大騒ぎになったこともある。肥満体で便秘もあり食欲も旺盛で話すうちに演説口調になり、攻撃的な言葉でますます興奮が強まってしまう。各種の薬でうまくゆかず、三黄瀉心湯エキス(大黄末を1g追加)によって徐々に妄想が消失し、夜も午後7時から翌日の6時まで熟睡するようになり、見違えるように穏やかになってきた。

小金井信宏先生は体内に生じた強い火熱は多くの精神疾患と関係し(火邪による精神疾患)三黄瀉心湯の瀉火作用はこのような病証にも有効で便秘の見られない病証にも使えると言っている



# 症例13 三黄瀉心湯:笑いが止まらない(君火偏亢による笑不止)

## 小金井信宏先生

中医学では笑いは(心聲)とも呼ばれている。

異常な笑いは心の病変の反映と考える。

例えば強い怒りによって生じた心火の影響で異常が生じ、笑いが止まらないという場合がある。

三黄瀉心湯を用い、芒硝を加えて瀉下作用を強め桃仁を加えて血分に対する作用を強める場合も意ある。

## 症例14 平胃散:アルツハイマー型認知症の激しい精神症状

72歳・男性(4/30) 76歳・女性(0/30)  
90歳・女性(7/30)・97歳・女性(0/30)

4人とも中肉中背、大声で人を呼ぶ、叫ぶ、奇声を上げる、泣きわめくなどで周囲の人を怯えさせている。共通点は**食欲旺盛で大食い、早食いの傾向**がある。**夜間の不眠は見られず幻覚や妄想もない。**岡本一抱(1654~1716)先生の「急性精神症状に対する平胃散の利用」を思い出し、1日7.5gを処方した。4人とも次第に落ち着き大声で騒ぐことがなくなった。平胃散は過食による消化不良症状への基本処方だが**胃腸の調整により気が落ち着くのは興味深い。**

## 症例15 真武湯：多愁訴・手足のほてりとむくみ

96歳・女性・糖尿病

入園時の血糖値は450mg/dl食べ放題

毎日のように不満な気持ちと多愁訴で落ち着かない。  
真冬に「暑いから窓を開けてほしい」と言うので四肢を触ってみると氷の様に冷たく、むくんでいる。脈は沈で細、腹力は軟弱である。便秘もあると言う。真武湯エキスを服用してもらおうと便秘もむくみも解消し、窓を開けろとは言わなくなり、非常におとなしく落ち着いてきた。当に**真寒假熱の一例**である。ほてりは冷えの極致である場合がある。人は温まると落ち着く様だ。ターミナルステージにも大いに用いるべき薬である。98歳で亡くなるまで真武湯は継続した。

# 症例16 真武湯：下痢による失禁に人参湯との合方

アルツハイマー型認知症  
77歳・女性・33.5kg・139cm

ショートステイ利用中、下痢で失禁しているとの報告で診察する。腹部軟弱で心下部に抵抗がある。水様便で食欲もない。ぐったりしている。そこで真武湯と人参湯を合方して1日3回内服してもらった。2回目の内服から下痢が止み、失禁しなくなり夕食からは食堂に出たいと言うようになった。徐々に元気になり普通便になって帰宅した。人参湯中の甘草は3gと多いが茯苓を含む真武湯と合方し、短期間だと心配はない。

# 症例17 真武湯:失禁(尿)傾向で会議が怖い

66歳・女性

67kg・149cm

寒がりです。元気が無い。最近トイレが間に合わず、急いで駆け込んでも失禁してしまうことがある。2時間或いは日によっては1時間も持たないことがある。会議などが長引くと心配で落ち着かない。胃のもたれもあり、舌には白膩苔がある。そこで六君子湯エキスと真武湯エキスを交互に1日3回服用するように指示し、甘い物の間食、果物飲みものの過剰な摂取を禁じた。2週間後先ず胃の具合が良くなり体が温まって1回の尿量が増え、失禁傾向が改善されてきた。2週間で2kgの体重減少がありすっきりした印象である。寒い日には真武湯を適宜増やすように言った。

## 症例18 補中益気湯:認知症の夜間せん妄:ターミナルステージ

87歳・女性・認知症ターミナルステージ

夜間、体を動かしてよく眠れず意味不明の言葉を発して落ち着かない。最小限の補液のみで口からは何も摂れない状態である。補中益気湯7.5gを注腸したところ、その夜から動かずに眠れるようになった。全く予想しない効果であった。2週間後苦しまずに永眠した。

## 症例19 味麦益気湯(補中益気湯+五味子+麦門冬) 夜の咳で疲労困憊

62歳・男性  
私の夫

風邪の後、いつまでも咳が取れず、夜寝つくと間もなく咳で起きてしまふ。何日も咳のために不眠となり疲労困憊して食欲もなくなってきた。当に気力体力の限界である。塾の小池先生に相談すると味麦益気湯を勧められた。帰宅して早速煎じて飲んでもらうと翌日から咳が下火となり眠れるようになった。この例以来、ここぞという時には煎じ薬が必要であることを痛感した。エキス剤で代用するとすれば補中益気湯+生脈散となる。

## 症例20 葛根湯:無汗の風邪・肩こり・頭痛・さむけ・37.3度

62歳・男性  
67kg・162cm

朝から頭痛・さむけ・頸と型の凝り、37.3度。食欲もあり汗もかいていない。脈にも力がある。使い慣れた葛根湯を1包内服し体を温めていたら10分くらいで諸症状が消え昼にもう1包服用して治ってしまった。葛根湯を飲んでクーラーの効いた部屋にいと効果が出にくくなる。葛根湯は有名な風邪薬だが麻黄剤なので汗と食欲、脈などを見ながら慎重に使うべき薬である。



## 症例21 葛根湯による脱汗

67歳・女性  
主婦・やや肥満体

近所で風邪に葛根湯を1週間もらって服用したが一向に治らないと来院した。真っ赤な顔で汗をかき「先生、なんでこんなに汗が出るのでしょうか？ だるくてたまりません」という。「1週間も続けたのですか？」と聞くと「漢方薬は安全だと思って」と答えた。

明らかに麻黄による脱汗状態で汗と共に陽気を失っている。

脈も弱い。そこで目の前で真武湯エキスを1包飲んでもらうと汗がたちまち止まり楽になったという。その後は3日間継続して風邪も治った。

## 症例22 葛根湯:さむけ・首肩のこり・下痢・無汗・鼻詰まり

64歳・女性・主婦  
63kg・158cm

普段から丈夫で胃腸も問題なく食欲も旺盛である。脈にも力がある。熱はない。葛根湯を温かいお湯で服用すると先ず鼻詰まりが治り、首、肩のこりが軽くなり下痢も止まった。3回飲んで風邪を追い払うことができた。葛根湯の証がそろっていて下痢している場合には葛根湯で下痢も治る。

太陽ト陽明ノ合病必ズ自下痢ス。葛根湯之を主ル  
傷寒論太陽病中篇

## 症例23 桂枝湯:さむけ・頭痛・汗ばみに

72歳・男性  
会社員

ホテルで会議中、クーラーが効き過ぎたせいか、さむけと頭痛がしてきた。首筋が汗ばんできて顔だけ少しのぼせている。脈は浮いているがやや弱い。急いで桂枝湯をお湯で内服したところ、たちまち温まって頭がすっきりし、頭痛も消失した。帰宅後も追加してそれっきり治ってしまった。

太陽病、頭痛、発熱、汗出デテ悪風スルハ桂枝湯之ヲ主ル  
傷寒論太陽病篇

## 症例24 桂枝人参湯：発熱と下痢・汗ばみ

78歳・女性

38度の発熱と下痢3回、さむけと頭痛があり肩も凝っている。  
汗ばんでいて食欲もない。吐きけはない。脈は浮だがやや弱い。  
普段から胃腸も弱い。熱と下痢を同時に治すために桂枝人参湯を  
処方した。1回飲んでさむけが取れ、3回目で下痢も止まって37度  
に解熱した。桂枝人参湯は胃腸の弱い人の熱と下痢に有効だが  
下痢はなく熱と吐きけで始まる風邪にも使いやすい。

## 症例25 麻黄附子細辛湯：くしゃみ鼻水で始まる風邪

68歳・女性  
主婦

背中がぞくぞくしてくしゃみ、鼻水があり、のどがいがらっぽい。  
熱はなく汗もない。食欲は普通にある。麻黄附子細辛湯エキスを  
1包内服するとたちまち体が温まりくしゃみも鼻水も楽になった。  
顔色は悪く脈弱い人が多いが必ずしもそうではなく浮弱の場合もある。

## 症例26 苓甘姜味辛夏仁湯：くしゃみ鼻水、体が寒い

89歳・女性

普段から胃腸が弱い。苓甘姜味辛夏仁湯の服用で軽快し、3日目で治った。本方は麻黄剤が痞えないようなくしゃみ鼻水に便利な処方である。小青竜湯の虚証タイプと言える。

・小青竜湯：甘草・乾姜・五味子・細辛・半夏・麻黄・桂枝・芍薬

・苓甘姜味辛夏仁湯：甘草・乾姜・五味子・細辛・半夏・茯苓・杏仁

## 症例27 麻黄附子細辛湯：一睡も出来ない

63歳・女性  
主婦

カゼっぽい時には早目に本方を飲んで治してきた。  
ある日夕食後にゾクゾクしてきたので寝る前に1包服用  
して鼻水もくしゃみも取れて温まってきたのだがその夜は  
一睡もできなかった。麻黄の覚醒作用は強く出る人、  
出ない人、個人差がある。

## 症例28 桂姜棗草黄辛附湯：長引くこじれた咳の風邪

60歳・男性  
マッサージ師・ほっそりとして虚証

もう2週間も風邪が治らず鼻水と咳が継続している。ザワザワ感も取れない。食事はとれている。ストレスも続いている。腹を見ると中脘に圧痛があるので、桂姜草棗黄辛附湯（桂枝湯＋麻黄附子細辛湯）を処方すると服用翌日から徐々に楽になり風邪から抜けたという。本方は大気一転の法と言われるが日が経ってこじれた風邪にも有効なことがある。



## 症例29 真武湯：発熱・身体痛・ふらふら感・口渇・下痢・倦怠感・脈沈弱

85歳・女性  
実母

寒くて下痢して体が痛くてだるくて起きられない。起きるとふらふらしてトイレに何とかいけるが頭がぼーっとするという。37.5度。脱水が考えられたので点滴を開始し、真武湯エキスを処方した。体の痛みとふらふら感が消失し、下痢も止まり熱も下がった。点滴は2日間継続し、お粥が食べられるようになり3日目にはすっかり元気になった。高齢者では真武湯から始まる風邪も少なくない。

少陰の葛根湯と言われる所以である。

## 症例30 桂枝加附子湯：強いさむけと頭痛・汗ばみ 足の置き場がないほどの倦怠感

66歳・女性

夕方から発症、顔は紅く、脈は速いが桂枝湯にしては弱い。  
37.4度、強いさむけと脈、倦怠感を目安に桂枝加附子湯（桂枝湯  
＋加工附子1.5g）を服用して温かくして寝た。するとさむけがとれ  
翌朝にはすっきりして熱も平熱になった。

太陽病、汗ヲ発シテ遂ニ漏レ止マズ、ソノ人悪風シ、小便難、  
四肢微急、以ッテ屈伸シガタキ者ハ桂枝加附子湯此レヲ主ル。

## 症例31 桂麻各半湯:さむけ・頭痛・身体痛・咽の痛み・赤い顔・汗

63歳・男性  
自営業

普段から汗かきだが風邪のひき始めも必ず汗ばみ、頭痛・背中のさむけ・身体痛・のどの痛みがあり赤い顔をしている。先ず桂枝湯を考えたが脈が桂枝湯より強く身体痛の強さも考慮して桂麻各半湯(桂枝湯2.5g+麻黄湯2.5g)を与えると15分後に諸症状が軽減した。以後風邪のたびに愛用している。

桂麻各半湯・桂枝二麻黄一湯・桂枝二越婢一湯

# インフルエンザ 麻黄湯と大青竜湯の違い（斉藤輝夫先生）

- ・麻黄湯証：悪寒
- ・大青竜湯証：悪寒・熱証（煩燥・面赤・熱感：寒い中にどこかあつい）

・麻黄湯：麻黄三両

・大青竜湯：麻黄六両

麻黄は皮毛を開いて寒邪を追い出す道を作る。

大青竜湯証では皮毛の閉塞が強いため麻黄は麻黄湯の二倍が必要である。

# 大青竜湯方の石膏（斉籐輝夫先生）

石膏は少量に留めるべきである。皮毛の閉塞が強いため寒邪は皮毛から侵入した直後に皮毛と筋肉の間に閉じ込められ化熱する。閉じ込められた熱邪を発汗によって体表の寒邪と一緒に発散するのが大青竜湯である。石膏は重いため、少量でなければ辛涼解表剤として作用しない。

大青竜湯中の生薬の比率が重要

石膏12・麻黄6・桂枝2

# エキス剤で大青竜湯を作る場合（斉藤輝夫先生）

---

- ・越婢加朮湯3包……石膏8・麻黄6
- ・桂枝湯1.5包……桂枝2
- ・桔梗石膏1.5包……石膏7.5

## 症例32 柴胡桂枝湯と麦門冬湯:表証が残った風邪:咳と微熱

82歳・女性  
主婦

風邪で愛用している麻黄附子細辛湯を飲んで少しばかりよくなったが胸の奥から出るような咳と胃の痛みが出てきて食欲が無い。舌には白苔、熱は37度、少し汗ばんで顔も赤い。熱に加えてさむけと頭痛など表証も残っている。太陽病表証を残しながら一部少陽病に移行して来た段階と考え柴胡桂枝湯を与えたら楽になり胃の痛みも消えて熱も下がった。その後の咳は麦門冬湯で軽減した。

傷寒六七日、発熱し、微かに悪寒し、四肢煩痛し、微かに嘔し、心下支結し、外証未だ去らざる者は柴胡桂枝湯此れを主る・・・太陽病篇

## 症例33 柴胡桂枝湯＋桔梗石膏：発熱・関節痛・咳と痰・ 口が粘つき食欲もない。

67歳・女性  
会社員

風邪で6日目になるのに38度の熱、表面の皮膚がチリチリして関節の痛みもあり咳で胸も苦しく一睡もできない。舌苔もある。口が苦くて口渇もある。風邪が表面から一部中に入り気管支、肺の炎症を来たしている。柴胡桂枝湯加桔梗石膏として煎じ薬を出したところ1時間後には36.2度に解熱し食欲も出てきた。その晩から麦門冬湯も併用して咳もおさまり眠れるようになった。麦門冬湯と桔梗石膏で竹葉石膏湯の方意もある。



## 症例34 小柴胡湯合麻杏甘石湯：気管支炎

邪をこじらせて気管支炎のようになり、食欲が無くなって胸の奥から咳がこみあげてくる。口が苦くて上腹部が苦しく中が熱いような気がする。だるくて夕方になると微熱が出る。さむけや頭痛はない。

胸脇苦満が強い。小柴胡湯と麻杏甘石湯エキスで徐々に改善され4日目から食べられるようになった。脈は弦

小柴胡湯中の柴胡・黄芩・半夏は攻める薬・人参・甘草・大棗・生姜は守る薬

攻守とも偏らない故に和解と言い本方は和解剤の主方とされる  
(高山赤本)

## 症例35 柴朴湯と麻杏甘石湯：気管支炎で長引く咳と胸苦しき

68歳・女性

風邪から6日目強い咳が止まらず苦しい。粘った痰が取れず胸につまって熱っぽいが無熱。食べられるが美味しくはない。

柴朴湯処方により胸の苦しさや咳が次第に減ってきた。

麻杏甘石湯を途中から併用してすっかり治った。

柴朴湯は気管支の痙攣による咳に有効だが小柴胡湯も半夏厚朴湯も共に気道を乾燥させる作用が強いため湿痰に用いるべきで乾咳には用いるべきではない。

# 症例36 柴陷湯：激しい咳発作と胸痛：咳喘息

62歳・女性  
介護スタッフ

激しい咳と痰で胸が痛いと言いながら胸を押さえて受診。

風邪をひいてから8日目になるという。食欲はあるがあまりおいしくない。舌には白苔が強く、脈にも力がある。柴陷湯エキスを処方すると服用直後からたちまち楽になり胸の痛みも咳も減って3日目には治った。「本当によく効きました」と感謝された。

柴陷湯は小柴胡湯と小陷胸湯の混ざった薬であり、小柴胡湯加黄連栝呂仁である。

黄連が清熱燥湿作用、栝呂仁は鬱熱を去り胸痛を治す生薬である。

## 症例37 竹茹温胆湯：長引く咳と倦怠感・不眠

49歳・女性  
看護師

インフルエンザの熱は下がったが咳と痰が長引きどうしようもなく  
だるくて夜も熟睡できないという。黄色い痰、右胸脇苦満、舌には  
部分的に黄色の苔、頭がぼやけて何となく重くつらいという。発病  
から2週間も経過しているし、少陽病が長引いて胆の湿熱が起こり  
心を上擾して煩熱・咳嗽・喀痰・不眠・多夢などを現わし陰虚内熱を  
も補うような薬方としての竹茹温胆湯を処方した。2回目の服用  
から楽になり1週間で改善した。

# 三薬方の違い

## ・麦門冬湯

麦門冬・半夏・粳米・人参・甘草・大棗(肺と胃)

## ・滋陰降火湯

麦門冬・天門冬・地黄・黄柏・知母・当帰・甘草・蒼朮・  
芍薬・陳皮(肺と腎)

## ・滋陰至宝湯

麦門冬・茯苓・柴胡・当帰・芍薬・薄荷・地骨皮・香附子  
(肺と肝)

## 症例38 柴胡桂枝乾姜湯：いつまでも微熱が取れない

72歳・女性

風邪がきっかけでいつまでも微熱が取れない。汗ばんで動悸がしてだるくてあまり食べられない。夜中の汗も更衣を必要とするほど多い。口渇もある。舌は胖大で齒痕があるが苔はない。何とか日中は起きていられるが夕方から37度以上になりだるくなってしまふ。脈も弱い。

柴胡桂枝乾姜湯の処方ですぐに軽快し4日目には平熱となり1週間後には寝汗が止まり1か月後にはやっと風邪から抜けて元気が戻った。

柴胡・黄芩で胸脇部の熱の鬱滞を去り、甘草・乾姜で肺を温め水を巡らせ、桂枝・甘草で動悸を止め、栝楼根は津液を生じて口渇を止める。桂枝は表証と気の上衝を治し、牡蛎は心煩動悸と汗を止める。

## 症例39 人参湯：食欲不振と軟便、つばが涎となっていて多い

89歳・女性

39kg・アルツハイマー型認知症

口角につばがたまり時に涎となっていて垂れることがあるが自分では吹き取れない。痩せて腹力は軟弱脈にも力が無い。人参湯エキスを処方すると徐々に便の性状が良くなり食欲も増えてきて意欲が無い人なのに歌を歌うようになった。唾も涎も減ってきて元気になってきた。人参湯には甘草が多いので高齢者には慎重に用いる必要がある。

大病癒テ後、喜唾久シク了了タラザル者ハ、胸上に寒アリ、  
当に丸薬ヲ以テ之ヲ温ムベシ、理中丸に宣シ  
傷寒論・陰陽易差勞覆病篇

## 症例40 四君子湯→→人参湯：食欲不振・つばが出ない

75歳・男性  
41kg・161cm・整形外科医師

8か月前に肺癌の手術を受けた。顔色がさえない。術後つばの出が悪くなり口の中がパサパサでものを飲み込みにくく話もしづらい。のどがチリチリ痛み、下半身は冷えて脱力感が強く、疲れがひどい。声も弱くて聞き取りにくい。腹力は軟弱でみぞおちには圧痛があり両側の腹直筋はつばっている。舌に苔はなく、少し赤い。唾が出ないことから人参湯ではないと思って脾気虚の基本処方である四君子湯エキスを処方した。服用後3回目で軟便になったので飲みたくないという。そこで目の前で人参湯のエキスを飲んでもらう。「前のよりずっと美味しいです」と。そこで継続してもらうと口渇が徐々に改善され、おなかがすくようになってきた。徐々に体重も増え顔にも赤みが差ってきて元気になり仕事に復帰した。人参湯も喜唾とは限らないと思わされた。



# 人参湯・四君子湯・六君子湯

いずれも君薬が人参である。虚弱者の食欲不振に用いる代表的な薬方である。

胃腸が冷えて気力の衰えた虚証の人に用いるが中でも最も弱いのが人参湯、次いで四君子湯・そして六君子湯となる。

六君子湯はかなり広範囲の対象者に使える。

・**人参湯**: 人参・朮・甘草・乾姜・

・**四君子湯**: 人参・朮・甘草・生姜・茯苓・大棗

・**六君子湯**: 人参・朮・甘草・生姜・茯苓・大棗・陳皮・半夏

## 症例41 補中益気湯→→十全大補湯：癌手術後の食欲不振・気力減退

72歳・男性  
前立腺癌手術

術後さっぱり食欲が出ず、気力も、戻らない。なんとなく熱っぽい  
が熱はない。夜には寝汗をかくこともある。だるくてたまらない。

補中益気湯エキスを処方。

徐々に気力が戻り食べられるようになってきて1カ月後には大分、  
元気になった。

寝汗も出なくなった。そこで十全大補湯にして元気を維持している。

**十全大補湯** = 四君子湯 + 四物湯 + 黄耆 + 桂枝：気血両虚

**補中益気湯** = 中気下陷

## 症例42 茵陳五苓散：腹水

87歳・女性  
41kg・146cm

癌性の腹水で膨満している。利尿剤を目いっぱい使って思うように減らず苦しいという。そこで茵陳五苓散エキス7.5gを処方してみたが全く変化が無い。エキス剤の薬力は煎じ薬より弱いと考え、また甘草を含まぬ薬方なので2倍量にして見た。するとたちまち利尿がつき1週間後腹囲が94cmから83cmに11cm減って楽になった。茵陳五苓散は五苓散に茵陳蒿を加えた薬方である。

## 症例43 小建中湯：現代薬の下剤では腹痛を起こし 排便がうまくゆかない

89歳・女性

39kg・146cm・ショートステイ利用中

自宅では毎日、浣腸を繰り返している。食欲もない。腹力は軟弱で腹直筋の緊張が強いので小建中湯エキス7.5g(成人の半分量)を用いたところ、先ず食欲が出てきた上、服用2日目から快便となり10日間のショートステイ中、浣腸は不要であった。以後自宅にも持ち帰り喜ばれている。

## 症例44 小建中湯と夕方のみ麻子仁丸・・常時便失禁のある人に

71歳・女性

36kg・136cm

病気も認知症もないのに失禁がある。歩きながら出てしまうので安心パンツを使っているが肛門が爛れてしまっていてつらいという。腹力は軟弱、両側腹直筋の緊張が強い。レントゲン上、大量の宿便の存在が判り、先ず大腸を空にする対応後、小建中湯エキス7.5gと夕方のみ麻子仁丸10丸を服用して快便となり、以後失禁がなくなった。麻子仁丸は滋潤性の下剤の代表で甘草を含まないので高齢者に使いやすい。

胃瘻装着者の頑固な便秘にも有効である。

## 症例45 桂枝加芍薬大黄湯 + 大黄末1.0~1.5g : 頑固な便秘

76歳・女性

現代薬の下剤は何を飲んでもすっきりでない。食欲は良好。足が冷えるとおなかが張る。桂枝加芍薬大黄湯エキス7.5gを処方したところおなかの張りも解消し、快便となった。今一つ出が悪い場合には大黄末を自分で追加して調子が良い。本方は桂枝加芍薬湯に大黄を加えたものであり温下剤の代表的な薬方である。桂枝加芍薬湯で腹満を治し、大黄で排便を促している。

## 症例46 大建中湯合麻子仁丸：繰り返す不完全腸閉塞

89歳・女性

年に数回、不完全腸閉塞を起こしその都度入院していた。退院後、大建中湯エキス15gと潤腸湯エキス7.5gを併用しながら排便が十分につくように心がけたところ腹痛・嘔吐の発作を起こさなくなり以来6年を経過するが一度も入院していない。潤腸湯も麻子仁丸と並んで滋潤性下剤である。

## 症例47 大建中湯合真武湯：寒くなると便が出ない

65歳・男性

普段は冷えると腹が張るので大建中湯を服用している。寒くなると決まって便の出が悪くなりすっきりしない。疲れると眩暈感が出やすく、寒いとだるくなる。脈も弱い。そこで真武湯を7.5g併用した。

すると温まってふわふわ感が取れ気持ちよく便が出るようになった。真武湯で便秘が治る人は高齢者に限らず結構多い。有る人では下痢を治し、有る人では便秘に効くのが漢方薬の特徴である。



## 症例48 大黃甘草湯：現代薬の下剤が合わない

70歳・男性

頑丈な体格・赤ら顔・高血圧症治療中

黄連解毒湯の愛用者である。快便を希望している。

そこで大黃甘草湯を用い、昼夕2回(2.5gずつ)の量で快便となった。

人によって使用量は加減する必要がある。

本方は便秘の基本処方である調胃承気湯から芒硝を抜いた処方である。

# 症例49 桃核承気湯：赤ら顔で頑固な便秘

67歳・男性  
高血圧症

腹部に瘀血圧痛点（少腹急結）がある。瘀血による便秘と考え、桃核承気湯7.5gを用いたところ気持ちの良い排便がありのぼせも赤ら顔も軽減した。本方は実証で瘀血のある人の便秘にも応用する。

- ・桃核承気湯……………桃仁・桂皮・甘草・大黄・芒硝
- ・調胃承気湯……………甘草・大黄・芒硝

## 症例50 加味逍遙散と大建中湯：頑固な便秘と冷えると腹痛

65歳・女性

腹力は軟弱だが右に軽度の胸脇苦満がある。神経質で旅行に行く  
とたちまち、便秘となり旅行の間4－5日以上全く出なくなったことも  
ある。加味逍遙散エキス7.5gと大建中湯7.5gを併用した。  
すると毎日快便となり、旅行中でも出るようになったという。  
温まって腹痛も起こらなくなった。本方の瘀血は真の瘀血ではなく  
血虚による血の巡りの悪さである。婦人の場合本方で便秘が改善  
する例は案外多い。

## 症例51 抑肝散加陳皮半夏：便秘ではなかったが初めて快便を得た。

62歳・男性  
医師

主訴は眩暈だがせっかちで怒りっぽい。胸脇苦満と臍傍動悸も触れたので抑肝散加陳皮半夏のエキスを処方した。

すると気持ちが穏やかになったと同時に予想外に毎日排便が2-3回あり、非常に気持ちが良いという。自分は今まで便が十分ではなかったと感じたという。眩暈は苓桂朮甘湯の併用で起こらなくなった。

## 症例52 一貫堂竜胆瀉肝湯：悪臭を伴う帯下

83歳・女性  
53kg・162cm

膣炎の爲、婦人科より膣錠をもらって毎日挿入していた。肺炎で入院し退院後より再び帯下が多くなりおむつが汚れてきた。陰部の洗浄を行っても改善しない。婦人科に再診する前に一貫堂の竜胆瀉肝湯エキス7.5gを処方したところ、日ごとに帯下が減少した。

本方は温清飲を含み地黄剤でありほとんどが苦寒剤から成る処方なので胃の弱い人には使いにくいですが食事摂取が良好なら問題ない。下焦の湿熱を解する代表処方である。

## 症例53 茯苓飲合半夏厚朴湯と半夏瀉心湯： 逆流性食道炎・苦い水が上がっていて眠れない

72歳・男性  
55kg・155cm

6年も前から夜間胆汁の様な苦い水がのど元まで上がってきてチリチリ痛い様な不快感で1時間ごとに起きてうがいをしないとられないという。上半身が熱く、口渇があり汗かきである。朝は食べる気にならないが昼と夕食は食べられる。パリエット2錠を夕食後に服用しているが治らないという。色々試してみたが茯苓飲合半夏厚朴湯と半夏瀉心湯の交互内服ではじめて改善し、夜も5時間ぐらい続けてねむれるようになった。

茯苓飲(合半夏厚朴湯)は胃内停水の改善薬だが甘草を含まないので高齢者に限らず量を増やして用いることができる。半夏瀉心湯は黄連・黄芩で心下の熱を瀉す。温薬と冷薬を交五に用いた。

# 心不全

- ・**苓甘姜味辛夏仁湯**・・・半夏・茯苓・杏仁・五味子・細辛・甘草・乾姜
- ・**真武湯**・・・・・・朮・茯苓・芍薬・生姜・附子
- ・**木防己湯**・・・・・・石膏・防己・桂皮・人参
- ・**九味栝榔湯**・・・・・・栝榔・厚朴・桂枝・橘皮・蘇葉・甘草・木香・生姜各・大黄
- ・**五苓散**・・・・・・沢瀉・朮・猪苓・茯苓飲・桂皮
- ・**茯苓四逆湯**・・・・・・人参・茯苓・乾姜・附子・甘草

湿疹は脾胃と肺・・・悪化要因は肝にある。

眩暈・耳鳴りは水の病が多く肝と腎から治す。

痛み・・・・・・通ぜざれば痛む・・・気血水の何処が通じていないのか？

ほぼ全例に瘀血の証は併発する・・・駆瘀血剤の併用

ホルモン剤・ステロイド・手術・抗ガン剤などは瘀血の原因ともなっている。

# まとめ

- 1・気血水の異常によって病を考える
- 2・病名は参考程度にする
- 3・同じ人に証はくるくる変化するるので本治と標治を常に考える
- 4・凝滞して発散されないものはたやすく化熱する。冷やすべきか温めるべきか、常に考えて治療を考える。
- 5・古典を頭から読んで理解するよりも使って効いた薬方から薬味、薬性を学んだほうが臨床に役立ちやすい。効かなかった薬に関しては後に検証しておく。
- 6・患者への説明は初診時にがっちり行うことがその後の時間の節約になる。
- 7・当初は易しい症例ばかりだが次第に難病が集まるようになる。以上の様な習慣を積み重ねれば対応可能となる。
- 8・先ずは脾胃を調整し食欲を維持するのが原則、必ずしも食前投与とは限らない。



**ご静聴ありがとうございました。**